

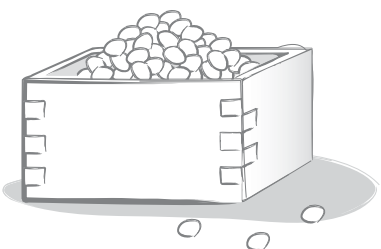


季節を知ったら  
暮らしが楽しくなった

〔第三号〕

大寒 だいかん

一月二十日



## 邪気を払う、豆まき

一年で一番寒いとき、大寒。宇治では子ども会が中心となって、寒中の夜に稲荷をめぐる「寒参り」が行われます。おあげを供えて「寒中お見舞い申し上げます」と皆で唱和。すると寒さを忘れてしまうから不思議です。

さて寒中の最後の日は、節分。鬼を追い払う豆まきの風習が全国にあります。が、もともとは一年の邪気の払い清め、正月の神さまを迎える大晦日の「追儺の儀式」でした。鳥羽市の離島、神島では今も大晦日に豆まきをするそうです。

宇治では節分の豆まきが定着しています。暗くなるとこの日ばかりは一家の主、お父さんの出番。神棚にお供えした煎り豆を「鬼は外、福は内」と声も高らかに四方へまき、ぴしゃりと戸を閉めます。中には、おじいさんが豆まきした時は両戸を閉めて、家の内側から戸をどんと叩いたそうです。何かのまじないでしょうか。

戸口にはヒイラギの小枝に刺したイワシを飾り、鬼がよりつかないようにします。その日の食事も、ウバメガシの枝でパチパチと音をさせた火であぶった丸干しのイワシ、赤飯、ダイコンとニンジンと干し柿のなます。煎り豆を少し半紙に包み、氏神さんへお参りし、これで本当に年を越しましたと一年の無事を感謝します。煎り豆を歳の数より一つ多く食べるのは、新しい年の分もいただくこと。ちなみにイワシは、猫にもらってももらう方がいいと低いところに飾るとか。寒さもちよつとやわらぐ気配りです。

翌日の立春には、残った豆で豆ご飯を食べるお宅もあり、暮らしはつつましくやかに春を迎えます。

文 千種清美